各社が誇る、現場で活躍する社員

水を仕事にする魅力、やりがい

机上で練り上げる魅力

三水コンサルタント
東日本事業本部
東日本事業部　技術第一部
鈴木　航平さん

■インターン契機に入社

大学卒業後、令和2年4月に入社して今年で5年目を迎えます。所属する技術第一部は下水道の計画に関連する業務を担当する部門です。担当エリアは関東圏内が基本で、現場に出向くことも多々あります。

大学では土木工学を専攻していたこともあり、就職先はゼネコンか、コンサルタントか、公務員かなと漠然と考えていました。その中で三水コンサルタントに入社する決め手となったのは、大学3年の冬に参加したインターンでした。三水コンサルタントの社長と私の出身大学が同じという縁もあって、大学のOB会の場で誘われたのがきっかけでした。

インターンでは、水コンの役割や働き方のイメージをつかむことができましたし、中でも机上でしっかりと練り上げる計画分野に魅力を感じ、ここで働いてみたいという思いも強くなりました。

■思いを計画に落とし込む

入社後、1年目は水道事業部で勤務した後、異動で現在の部署に配属されました。担当しているのは、下水道の整備などに関して地方公共団体が策定する5～7年を期間とする「事業計画」の支援業務です。

発注者である地方公共団体の要望を聞きながら、それを計画にいかに落とし込むかが腕の見せ所です。ヒアリングのために現場を訪問することもあり、私の場合は多い時は月に3回程度出張します。事業計画以外にも、国が公表するガイドラインや手引きなどを担当する部門、経営戦略を担当する部門の業務を手伝うこともあります。

1、2年目は先輩について回りながら、コンサルタントとしての実力を身につけていきます。私の場合は、最近主担当として関わる業務が出てきたタイミングで、指導係となる管理技術者の指示を受けながらですが、一人で業務に当たる場面も増えてきました。

■日々、勉強

もともと水道や下水道に詳しかったわけではなく、水に関わるものでは大学で水理学の講義を受けていた程度でしたが、仕事を通じて少しずつ理解を深めていくことができています。

今は下水道の事業計画を担当していますが、いずれはさまざまな業務メニューを担当することになるかもしれません。その時は一から勉強し直しで、コンサルタントは常に学んでいかなくてならないのだと実感しているところです。

先輩からは技術士資格を取得してからがコンサルタントのスタートラインだと教わっていましたが、今年度受験資格を満たしたことから、しっかりと受験対策をして技術士試験にチャレンジしたいと考えています。

世界を舞台に挑戦し成長

水ingAM
高根沢管理事務所　副所長
山﨑　翼さん

■経営基盤の安定性で選択

水ingは、荏原製作所、三菱商事、日揮の3社の出資によって誕生した、水道、下水道などの水・環境インフラに携わる事業領域を中心に、維持管理、エンジニアリング等を生業とした企業です。高校時代、私は進路指導担当の先生から水業界を紹介されたことがきっかけで当社を知り、出資企業に誰でも知っているような大企業が名を連ねていて、正直、経営基盤が安定していると感じたことから、入社を決めました。

■技能五輪国際大会での経験を生かし

2022年にドイツ・シュトゥットガルトで特別開催された技能五輪国際大会の「水技術」職種に日本代表選手として出場し、銅メダルを獲得しました。「水技術」職種は、2019年に開催されたロシア・カザン大会から採用された競技職種で、日本人の参加は2022年開催が初でした。

当時、将来世界で活躍できるよう何かに挑戦したいと考えていて、タイミング良く会社から技能五輪国際大会参加候補選手募集の話を聞き、志望しました。こうした前例の無いことに挑戦できる環境が整っていることは、水ingグループの魅力であると感じています。

大会では、さまざまな課題の中に工具の扱いなどの所作も採点の対象となっており、出場までの訓練によって、効率の良い作業方法を考えました。また、丁寧な作業を心掛けることや、トラブルに臨機応変に対応することも身についたと思います。技能五輪に参加したことで、現在のオペレーションの仕事に大いに役に立っていると思いますし、人前で話すことが苦手だった自分が多くの人の前でプレゼンできるようになったことなど、自分自身の成長にもつながったと感じています。

■水インフラの持続や地域に貢献

現在私は、栃木県にある浄水場および下水処理場の管理事務所の副所長として、所長のサポートや点検データの確認、業務調整やデジタル機器導入検討、設備トラブル対応などを担当しているほか、社内研修の講師や他の事務所に所属している新入社員のオンラインでのサポート（メンター制度）、地域の高校でのリクルート活動、社会科見学・修学旅行の受け入れ、SDGsに関する社内ラジオの運営などにも参加しています。新入社員のサポートでは、日本全国の職場で働いている社員とオンラインで会話し、近況報告などを受けており、年の離れた先輩には話しにくいようなことを相談してもらえるよう心掛けています。

日々新しい知識を吸収することができるので、水インフラに関わる仕事で飽きることはありません。水インフラ、そして、その先の地域貢献や街づくりの仕事に興味がある方は、挑戦を応援する環境が整っている水ingグループで、ぜひ社会への一歩を踏み出していただけたらと思います。

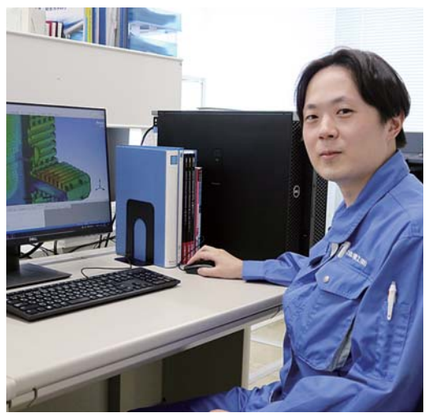
施工者に寄り添う設計を

大成機工
工事技術部　主任
小島　駿平さん

■幼少期の経験から

就職活動では、大学で学んだ機械工学の専門性を生かせる水関連のメーカーの技術職を志望していました。土地の標高が低い盆地で育ち、大雨になると自宅の周辺が冠水する様子を目の当たりにしてきたためか、幼いながらに水について考えることが多く、そういった環境で育ったことが水関連の仕事を志望するきっかけとなりました。

大成機工との出会いは企業説明会でしたが、不断水工法（断水せずに水道管路にバルブを設置する等の工事）等の独自の技術に魅力を感じました。私の実感としても、子どもの頃と比べて水道管工事等に伴う断水の発生が少なくなったように感じますが、その背景には不断水工法等の技術の発達があるのだと知り、自分も力になりたいとの思いで入社し、今年で7年目になります。



■現場の声を図面に反映

不断水工法の一つである、インサートバルブ工法の工事で使用する機材・製品の設計を担当しています。このうち、バルブと水道管路とを接合する特殊割継輪は、設計から試験までを担当し、ここ5年ほど改良を繰り返しています。

設計図面上は強度を満たしており問題ないように見えても、完成した製品が現場の施工者にとって施工しやすいか、使いやすいかという「機能」は別物です。大口径用機材の開発時には、「施工現場で、施工者が据付作業時に管の上部に上るための足場が機材に付いていなかったので、現場の判断で機材に足場を溶接取付した」という出来事もありました。これらの経験を踏まえて、普段から現場に足を運び施工者の要望を聞き取るように心がけています。現場の意見を設計図に反映し、満足してもらえる設計ができたときにはこの仕事のやりがいを感じます。実際に現場で使用する人にとってより良いものになるよう、日々試行錯誤を繰り返しています。

■安心して働ける職場環境

大成機工は最大1年間の育児休暇の取得が可能で、育休の取得・活用を推進しています。私は昨年、部署内の男性社員として初めて育休を取得し、半年間の育休を利用しました。男性社員の育休取得者はまだそれほど多くはありませんが、希望をすればきちんと取得できる環境が整っています。

また、専門性の高い仕事であることから、入社後に学ばなければならないことが数多くありますが、外部講習会の受講や社内OJT教育の場もあり、経験豊富な先輩方は聞けば何でも教えてくれるので、安心していただければと思います。